

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>その他90%同様、整備するべき。 100%となれば、そこに公共サービスを不公平なく提供可能となり、「各家庭、出向く先に十分な帯域を持つインフラがあること」を前提に、市民はライフスタイルを設計できる。そこには新たなニーズが生まれ、企業はリソースを投下し、コンテンツ市場が大きく躍進。国家レベルでの生産性向上を促進することにつながる。 また日本は国土が小さい。小さいからこそ、少ない資金で光の道を整備できる。これは、アメリカや中国などの大国との大きな差別化にも繋がり、日本が世界のITC産業をリードする大きな要因となる。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適切と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>30%の利用率向上には、下記3点が重要。</p> <p>[光回線の利用率向上に必要な要素]</p> <p>①回線価格の低価格化 ②高速回線を必要とするリッチコンテンツの整備 ③市民のITリテラシー向上</p> <p>[上記実現に効果的な施策]</p> <p>①はNTT構造分離※1による、公正競争環境の整備(SBM孫氏提唱) ②は光の道100% ③は①②を背景とする、教育・医療・公共サービス提供による「利用の促す機会の提供」が、改善に対して大きな影響力を持つと思う。</p> <p>※1について インフラは言い換えれば国家の根幹。その部分を完全に民営化することは様々なリスクをはらむ。なので、NTTのインフラ提供部分を切り出し別会社として独立させ、国が責任を持ち運営。公平な価格、サービスでその他インフラ企業やCATVに解放し、環境を整える。そしてNTTのサービス提供部分を完全民営化し、その他企業と同条件で競争させれば、公正競争は活性化すると思われる。</p>